

# 容器包装3Rのための 自主行動計画



## ■ 3R推進団体連絡会とは

3R推進団体連絡会は、容器包装リサイクル法の対象であるガラスびん、PETボトル、紙製容器包装、プラスチック容器包装、スチール缶、アルミ缶、飲料用紙容器、段ボールの各素材の容器包装の3R（リデュース・リユース・リサイクル）を推進する八団体により、2005年12月に結成されました。

循環型社会の構築に寄与するため、容器包装リサイクル法にもとづく分別収集と再商品化をはじめ3Rを一層効率的に推進するための事業を、広範に展開しています。

## ■ 自主行動計画の策定・実行の経緯

「容器包装3R推進のための自主行動計画」は、事業者が自ら実施するリデュース・リユース・リサイクルの目標・取り組み内容と、消費者やNPO、行政との連携を進めるための取り組みを取りまとめたものです。第1次自主行動計画は2006年度から2010年度、第2次自主行動計画は2011年度から2015年度までのそれぞれ五年間を計画期間としています。

第1次、第2次の計画推進を通じ、構成八団体が共通の目標を持って事業者自らの取り組みを進めたこと、さらに、関係主体間の連携に資する取り組みの中で、消費者、自治体、関係事業者、NPOや学識経験者等の多大なご協力をいただいたことにより、容器包装3Rの推進に一定の成果があげられたものと考えます。



## ■ 第3次自主行動計画＝自主行動計画2020の推進

2016年6月には、第3次の計画となる自主行動計画2020を公表しました（目標年度：2020年度）。本報告書は、自主行動計画2020の4年度にあたる、2019年度の取り組み実績をまとめたものです。

当連絡会では、循環型社会の形成に向け、今後とも容器包装の3Rと関係主体間の相互理解と連携の深化に一層努力して参る所存です。

当連絡会および構成八団体の活動にご理解とご協力を賜りました関係各位に心より御礼申し上げますとともに、自主行動計画2020の推進に引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 1 事業者自ら実施する 3R 推進計画

数値目標の基準年度：2004 年度

目標年度：2020 年度

### ○リデュースの推進

- ・環境配慮設計の普及
- ・リデュース目標の設定

### ○リユースの推進

- ・ガラスびんリユースシステムの維持
- ・消費者意識調査など連携強化に向けた取り組み

### ○リサイクルの推進

- ・環境配慮設計の普及
- ・多様な回収ルートの確保
- ・関係主体との情報共有や連携
- ・リサイクル目標の設定

### ○普及・啓発活動の推進

- ・環境に配慮した容器包装に関する情報発信
- ・びんリユースに関する普及啓発
- ・リサイクルに関する普及啓発

## 2 主体間の連携に資するための行動計画

### ○3R 推進団体連絡会の取り組み

- ・広報・啓発事業の継続
- ・情報共有・意見交換の充実
- ・調査・研究事業の実施

### ○各団体が取り組む共通のテーマ

- ・情報提供・普及啓発活動
- ・各主体との情報共有・意見交換
- ・調査・研究

### 3 紙製容器包装リサイクル推進協議会

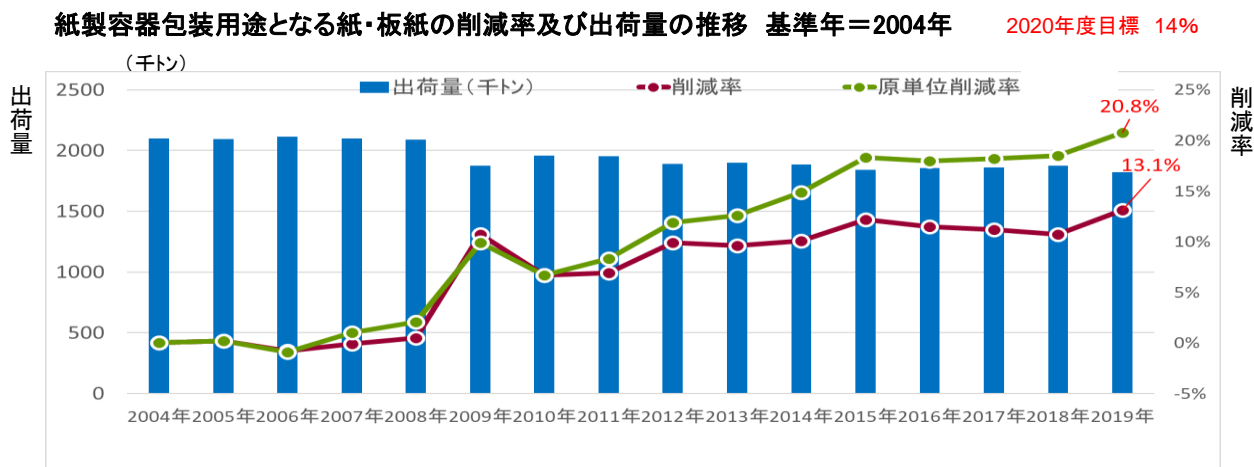
#### リデュースの推進（紙・板紙使用量削減）

紙製容器包装では、代表的な指標となる容器形態がないため、原単位による削減の把握が難しく、日本製紙連合会の統計情報等より、包装紙と紙器用板紙の出荷量をベースに紙製容器包装用途となる紙・板紙の国内出荷量を推定し、指標としています。

**自主行動計画2020(2016～2020年度)リデュース目標の国内出荷量は、基準年度(2004年度)比の目標14%(当初目標12%)削減に対し、4年目の2019年度は13.1%(前年度10.7%)削減、自主行動計画をスタートした2006年度からの累積削減量は2,356千トン(前年度2,081千トン)に達しました。**

**売上高 ※1 を原単位としますと、基準年度(2004年度)比で、20.8%(前年度18.5%)削減しました。**

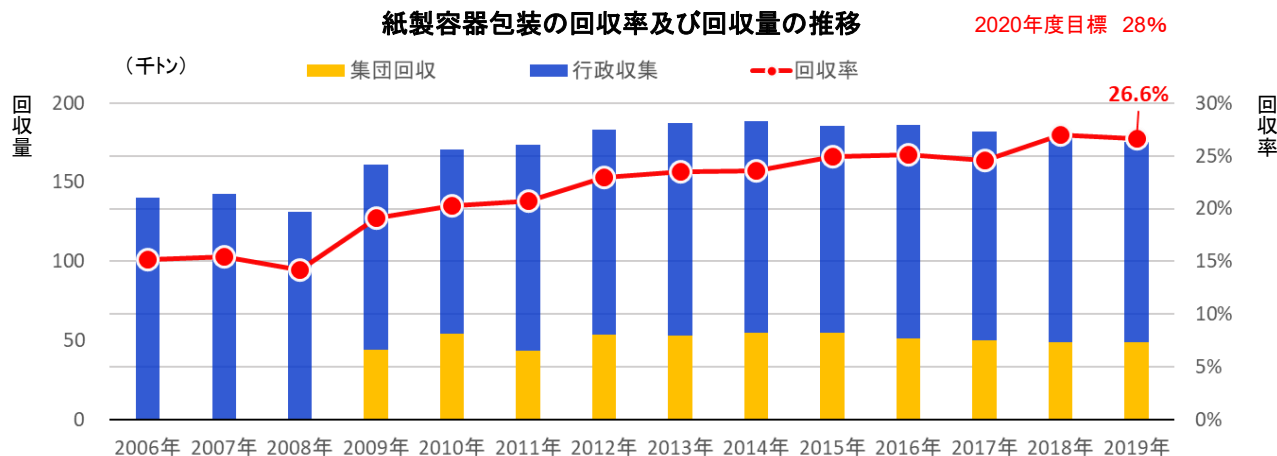
※1 売上高:経産省商業動態統計より 売上高=小売業計-自動車-機械器具-燃料



#### リサイクルの推進（紙製容器包装の回収率推定のための調査）

紙製容器包装の回収率を推定するため、「回収物の組成分析調査」や市町村への「紙製容器包装のアンケート調査」、「ヒアリング調査」及び「家庭からの紙製容器包装の排出量モニター調査」より、回収率を算定しました。

**自主行動計画2020(2016～2020年度)の回収率の目標28%に対し、4年目の2019年度は、行政収集19.2%、集団回収7.4%、「紙製容器包装」合計の回収率は26.6%(前年度27.0%)となりました。**



## ＜ヒアリング調査・新型コロナウイルス感染拡大の影響＞

市町村での分別収集実績データが公表されていますが、2019年度も3市で直接、ヒアリング調査を実施しました。2019年度末より新型コロナウイルス感染拡大の影響や中国の廃棄物輸入規制の影響を受け古紙相場が低迷する等、今後の回収率の低下が懸念されます。

### ＜回収物の組成分析調査 [A]＞

紙製容器包装の資源回収は市町村で様々な方法で実施されています。その資源化回収量算出のため行政収集・集団回収での

- (a) 「雑誌・雑がみ」混合回収中での紙製容器包装の構成比
- (b) 「雑がみ」分別回収中での紙製容器包装の構成比

などを当推進協議会の独自調査により2019年度は2市で実施しました。



### ＜紙製容器包装のアンケート調査 [B]＞

人口10万人程度以上の295市区を対象にアンケート調査を実施し、290市区より2019年度の行政収集と集団回収の(a)「雑誌・雑がみ」混合回収量、(b)「雑がみ」分別回収量等の回答を得ました。

### ＜家庭からの排出量モニター調査 [C]＞

家庭から排出される紙製容器包装の排出量モニター調査を2018年度に実施し、資源回収可能な紙製容器包装の年間排出量を約66.1万トンと推定しました。

### ＜紙製容器包装の回収量 推定＞

[A][B]の調査より、全国の「紙製容器包装」の行政収集量は約12.7万トン、集団回収量は約4.9万トンと推定し、年間合計回収量は約17.5万トンと推定しました。

### ＜回収率算定＞

「紙製容器包装の回収量」及び「家庭からの紙製容器包装の排出量モニター調査」より、行政収集率は19.2%、集団回収率は7.4%と推定し、合計回収率は26.6%と算定しました。

## 紙製容器包装 3R改善事例集第14版を発行・CLOMAに参加

実際の商品で実施されている広範囲な3Rの改善事例を会員企業・団体を中心に事例提供をいただき「紙製容器包装3R改善事例集第14版」を発行、業界全体の環境配慮設計のレベルアップのため、普及啓発に努めています。

2020年度は「プラスチック資源循環戦略」の「プラスチックから紙、バイオマスプラスチック等の再生可能資源への適切な代替の促進」等、直接係わりところもあり、経済産業省のCLOMAに参加、環境配慮設計として「紙化」についても3R改善事例集に取り上げました。



## リサイクル適性を考慮した環境配慮設計の取り組み

紙製容器包装のリサイクルの推進のために

- ①紙箱にミシン目を入れることにより廃棄時に潰しやすくする
- ②紙とプラスチックを分離しやすくする
- ③紙単体の包装設計を行う

などの環境配慮設計の取り組みを進めています。



切り込み点線を入れ潰しやすく

半円形のミシン目

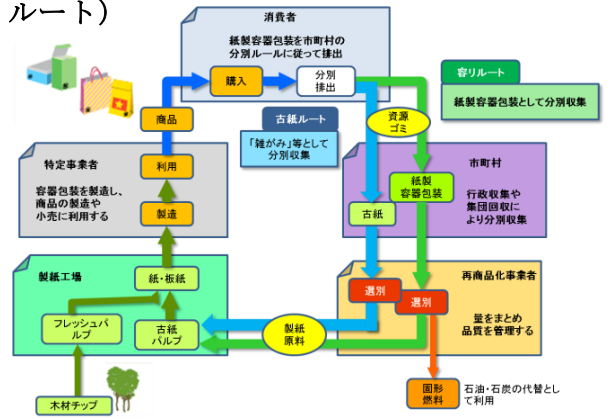


# 紙製容器包装のリサイクルフロー

紙製容器包装は、2つのリサイクルルートで資源化されています。

## 1 「紙製容器包装」として分別収集するルート（容リルート）

市町村で紙製容器包装の識別マークのついたものを対象に集め、収集されたものの再商品化（リサイクル）は特定事業者（容器包装の製造利用事業者）が、指定法人（（公財）日本容器包装リサイクル協会）に委託して行われます。主に製紙原料に利用され、製紙原料に向かないものは固形燃料等として利用されます。



## 2 「古紙」として分別収集するルート（古紙ルート）

市町村で従来からの古紙（新聞・雑誌・段ボール等）の回収ルートを利用して主に製紙原料に向く紙製容器包装を集め、製紙原料に向かないプラスチックとの複合品や、匂いのついた箱等が回収対象から除かれます。

紙製容器包装は、「雑がみ」「その他の紙」などの分類で、紙小物類との混合で回収されます。

## アルミ付き飲料用紙パックについて自主回収やNPO等の活動を支援

アルミ付き紙パックの自主回収の仕組み作りとして、市民団体との協働による「酒パックリサイクル促進協議会」が設立され、その活動を支援しています。

小売酒販店を主体とした回収拠点「エコ酒屋」は、現在、全国で483店舗の取り組みがあります。また、酒造メーカーで発生する損紙のリサイクルシステムの構築も進められています。

## 「エコプロ2019」に出展

当推進協議会は2019年度も、（公財）日本容器包装リサイクル協会のブースにて、展示等を行いました。紙製容器包装のリサイクルの工程を分かりやすく説明、再商品化製品の展示を実施しました。



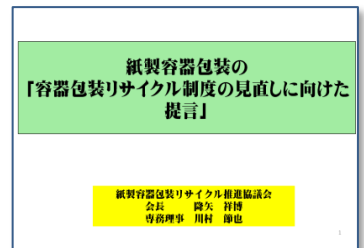
## 容器包装リサイクル制度の見直しに向けた提言（紙識別マークの見直しを提言）

当推進協議会にて設置した容リ法改正対策委員会において、紙製容器包装のリサイクルにおける課題及び対策を整理し提言案をまとめ、2012年11月20日の理事会において承認されました。本提言において、紙製容器包装の回収量拡大を要望しており、回収量の拡大にあたり紙識別マークの見直しを提言しています。

紙製容器包装の分別収集は、容器包装リサイクル法に従った指定法人ルートと、「雑がみ」として既存の古紙ルートを利用した回収方法があり、市町村の判断により地域の実情を反映した分別収集方法で実施されています。このため、紙製容器包装中の回収対象物と非対象物（難処理古紙）の設定に市町村ごとに違いがあるため、紙識別マークは多くの市町村で利用されていない状況にあります。

また、難処理古紙でも古紙パルプを製造可能な工場が一部あり、製紙原料化の適・不適でも画一的な区別は行われていない状況です。

当推進協議会では、容リ制度見直しの合同審議会において、ヒアリングを受け、紙識別マークの見直しを含む本提言を説明し、2016年5月の「容器包装リサイクル制度の施行状況の評価・検討に関する報告書」において、「紙製容器包装の回収量の拡大の観点からの識別表示の検討を引き続き行うべきである。」と考えられる施策の例として取り上げられました。



以下に当推進協議会の提言骨子を示します。

### 紙製容器包装の「容器包装リサイクル制度の見直しに向けた提言」

#### 1 紙製容器包装の収集・リサイクルの促進

##### 提言1 紙製容器包装を収集する市町村の拡大を要望する

容リルート「紙製容器包装」分類での収集及び古紙ルート「雑がみ」分類での収集を実施する市町村の拡大を要望する。

##### 提言2 紙単体紙製容器包装と複合紙製容器包装の区別表示の設定を提言する

古紙ルート「雑がみ」分類で収集を実施する市町村の拡大及び紙製容器包装の回収量拡大のために、紙単体紙製容器包装と複合紙製容器包装の区別表示の設定を提言する。

##### 提言3 複合品の収集・リサイクルの促進を提言する

複合品も、家庭から排出される容リ法対象の紙製容器包装の約14%（約10万トン：当推進協議会調査）を占め、固形燃料等の有効なリサイクル資源であるため収集・リサイクル促進を提言する。

##### 提言4 紙製容器包装の収集拡大のための啓発を要望する

紙製容器包装収集を実施する市町村を拡大するために、紙製容器包装が有効な資源であることを市町村に啓発することを要望する。

##### 提言5 今後の制度見直し

紙製容器包装全体のリサイクルシステムのあるべき姿の研究を進める。

#### 2 容器包装3R制度全体のあり方について

##### 提言6 三者の役割分担を維持し取り組みの深化を図る

##### 提言7 主体間連携の強化を図る